

# 1. 評価報告概要表

作成日成 20年 4月 2

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070101231
法人名	医療法人 杉本病院
事業所名	グループホームみどり荘
所在地	群馬県前橋市公田町1194 (電話) 027-265-5787

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年3月19日

## 【情報提供票より】(20年 3月 3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人	常勤換算 7.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,950 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 315円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日 1,260円			

### (4) 利用者の概要( 3月 3日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	72歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人杉本病院 万代歯科診療所
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くに利根川が流れ、郊外の緑豊かで静かな場所に平屋建てのホームがある。隣にはゴルフ場があり食堂からプレーする人たちがよく見えて、入居者が外出時に立ち寄りお茶を飲むこともある。「心の癒しを介護の心とする」ことを理念にあげ、安心して生活が送れるよう支援している。特に日常の会話から得られる入居者の希望を大切に、外出や買い物などは個別に支援し、支払いは本人が自分の財布で出来るよう見守るなど、自立支援に向けた取り組みを行っている。近隣の人からは野菜が届き、お茶を飲んでいく人もいるなど地域との交流が図られている。災害時には地域の応援態勢が整っており、健康管理については、法人の母体が病院であり夜間の緊急時でも対応が可能であるなど安心して過ごせるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善点については、職員が一丸となって取り組んでおり、「トイレのカーテンは、プライバシーに配慮し、レースのカーテンからみどり荘にちなんだグリーンの透けないカーテンに替える。」「預かり金については、出納帳で管理する。」「同じ食卓で食事を共にすることに関しては、更に検討している。」</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員の意見を聞きながら管理者がまとめ、運営者に提示し確認している。評価の意義は全員が理解している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回の運営推進会議は同法人のグループホームと合同で行われており、構成員は自治会長、家族代表、市職員、管理者、職員である。会議ではホームの状況や評価の報告、健康状態などを報告している。「グループホームってなあに？」などのパンフレットを作成し学習会をすることもある。会議には近隣の人たちにも声をかけ参加を促しているが、高齢者が多く参加者はみられない。会議の内容は議事録に掲載し、家族の面会時に報告している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームの玄関に意見箱を設置したり、外部の苦情窓口についての案内を出し、家族が意見や要望を出しやすい環境を提供している。家族の面会時などに、話しやすいようにコミュニケーションを図り耳を傾けている。これまでに散歩やドライブについての要望があり、運営に反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周囲は畑が多く近隣は農家が多い。殆どの人はホームの存在を承知しており、野菜が届いたり、お茶を飲んでいく人もいる。自治会には加入していないが、地域の納涼祭等の行事に参加したり、また、ホームのイベントには地域の人達に声をかけ参加を呼びかけている。災害時の応援態勢も確立され地域との連携がとれている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私たちは心の癒しを介護の心とします」の理念を基に、「家族や友人・ボランティアや地域との交流が自由にできるように配慮します」の基本方針を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務室に掲示し、毎月の職員会議で理念について話し合い確認をしている。入居者のペースにあわせた介護をしたいとの職員の思いから、常に理念を共有し、理念に沿った実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人達にグループホームの存在を知ってもらう為に学習会を行ったり、ホームのイベントに参加を呼びかけている。自治会には入会していないが、地域の納涼祭に参加したり、毎日の散歩等で地域の人と挨拶や会話を交わす等交流を深めており、入居者が一人で外出しても知らせてくれる等の関係が築かれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と職員が一丸となって取り組み作成し、運営者が確認している。改善課題は、「カーテンをみどり色の透けないカーテンに付け替える。」「金銭管理は出納帳に記録し、面会時に家族に報告する。」等、管理者・職員は前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議ではホームの現状、入居者の健康、評価の報告を行っている。「グループホームってなあに？」などのパンフレットを作成し学習会を行うこともある。構成員は家族代表、自治会長、市の職員、ホーム職員であるが、少人数のためか意見や要望は殆ど出していない。会議の内容は家族の面会時に議事録をみてもらっている。	○	運営推進会議では、参加メンバーからの率直な意見が引き出せるよう、また、意見を反映した取組みがなされるよう期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には申請手続きや調査結果を報告に行くが、相談事や他のグループホームに関する情報等、殆どの要件は運営推進会議の中で話し合われるため、市へ出向することは少ない。市で行う研修には毎回参加している。	○	運営推進会議以外でも、ホームから積極的に情報を提供したり、情報交換するなど市との関わりが密になることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回「みどり荘通信」を郵送し、ホームでの生活の様子を写真等を載せて報告している。又、面会時には健康状態の報告や金銭の出納帳を確認してもらっている。事務室にある連絡ポケットに連絡事項などをまとめておき、家族の面会時に渡し、1ヶ月間面会のない家族には郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。また、運営規定や重要事項説明書の中に苦情相談窓口が掲示されている。入居者や家族には常に話を聞き、意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や離職者が出た場合には、残った職員で入居者のダメージを最小限にするために、声かけを多くする等フォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は交代で年1回の外部研修に参加しており、参加者は報告書を提出し、伝達の勉強会を行い情報を共有している。職場内研修は、随時行っている。業務に支障がない限り研修の参加を促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入しており、交換研修会など積極的に参加し、その情報を職場で報告し共有している。施設相互の訪問や見学会に参加しているが、当ホームは就業年数の少ない職員が多いため現在は受け入れていないが、今後受け入れる方針である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人・家族に見学をしてもらったり、宿泊体験をしてもらうこともある。利用時には本人の箸筥や食器など馴染みのものを持参してもらったり、声かけを多くして、徐々に雰囲気に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職業や趣味など入居者一人ひとり経験が豊富で、うどん打ちや料理の味付けなどを教えてもらうなど、職員が学ぶことが多くある。また、空襲や東京オリンピックなどの昔のニュースの話をしてくれるなど、一緒に過ごしながら支え合う関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から一人ひとりの希望を把握し、ミーティングノートに記録し職員が共有し支援している。買い物や散歩の希望が多いが、個々の希望に添えるよう努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族、各関係者から情報を得て、アセスメントシートを利用して職員会議で入居者一人ひとりについて検討し、本人・家族の要望を反映した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリングやアセスメントシートを利用し、本人・家族・関係者の意見を取り入れ職員会議で話し合い、3ヶ月に1回の見直しをしている。状態の変化があった時は、随時計画を見直し作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の状態が変化した時の病院受診の援助や、糖尿病の食事療法の指導を入居者と一緒に受ける等必要に応じて対応している。また、車いす利用の入居者の美容院の送迎や買い物等の支援等、柔軟な対応に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体が病院であり、月2回の往診や、急変時の情報提供を密に行う等、安心した適切な医療が受けられている。また、1日2回、体温・血圧を測定し毎日病院へファックスし、医師に報告する等、健康管理には常に十分な支援がされている。緊急時には夜間の往診も可能である。入居者の希望するかかりつけ医の受診援助もしている		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在ホームでの看取りは考えていない。看護師がいないことや夜間帯の勤務体制から、入居者が重度化したときや終末期の受け入れは大変困難であり、法人が病院であることから、家族に説明し入院してもらっている。	○	今後ホームでの看取りを入居者や家族が希望される場合等を考え、重度化や終末期のあり方を職員全体でさらに話し合い、方針を共有され検討されるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけは穏やかで、プライバシーを損ねるような対応はみられない。記録等は書類棚に保管され、個人名がわからないよう書類棚のガラスに紙を貼っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の会話の中から希望を把握し、一人ひとりのペースにあわせ散歩を楽しんだり、洋服を買いに行くなどの支援をしている。食事を食べる時も急がせることなくゆっくりと、入居者のペースにあわせ介助している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の下ごしらえや後片付けを行い、食事前には嚥下体操等を行うなど、食事が楽しみになるよう支援をしている。一人ひとりの嗜好について希望を聞いて献立に取り入れたり、家庭菜園で作った野菜を食材に取り入れたりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の予定であるが、希望がある場合は随時入浴可能である。入浴を拒否する場合には、声かけをして時間をずらしたり日を変えるなどで対応している。その日の入浴者は、業務日誌に記載されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	モップかけや洗濯物たたみ、テレビ鑑賞や散歩など、役割や気晴らしの支援をしている。新聞のチラシを見て買い物希望する場合には、直接買い物を楽しむ機会を設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物を日常的に行っている。ホームを出られた方の所へ面会に行ったり、花見に出かける等の支援をしている。又、自由に庭に出て花を見たり、隣接するゴルフ場のゴルフのプレーを見て楽しんでいる。散歩をしながらゴルフ場でお茶を飲んでくこともある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や他の出入り口などを施錠せず自由に入ることができる。入浴介助や食事の準備で職員が手薄になり、やむを得ない場合には施錠することもあるが、このことは家族に説明し了解を得ている。	○	鍵をかけないケアに取り組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の緊急マニュアル並びに連絡網が電話のところに掲示され、近隣の応援態勢も整い連絡ができる体制である。春と秋、年2回の訓練では日中を想定した訓練や、夜間を想定した訓練が行われ、地震災害に向けた訓練も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立表を入居者に合わせ食べやすいようにアレンジし調理している。毎食後に摂取量や飲水量を確認しチェック表に記載、更に温度表に転記し把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間や和室は明るく、廊下は広く天井も高いため圧迫感を感じられない。食堂には手作りの日めくりカレンダーや行事時の写真が飾られている。大きな窓やテラスからは季節の花や鳥の姿が見られる。また、出入り自由なテラスには手作りのテーブルや椅子が備えてあり、戸外で心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビが置かれ、家族の写真や花等が飾られている。和室の部屋もあり希望に応じて利用されている。清掃も行き届き、明るく居心地良く過ごせる部屋となっている。		